

深谷市新庁舎建設
基本設計・実施設計業務公募型プロポーザル
審査結果報告書

平成28年6月

深谷市新庁舎建設設計業務プロポーザル審査委員会

1 本プロポーザルの実施目的

深谷市新庁舎建設基本計画を踏まえ、新庁舎建設基本設計・実施設計業務を委託するに当たり、発注者の考え方に柔軟に対応できる高い技術力及び豊富な経験等を有する設計者を選定することを目的として、公募型プロポーザルを実施した。

2 審査経過

- 平成28年4月 5日 第1回審査委員会（実施要領等の決定）
- 平成28年4月11日 公募型プロポーザル募集の開始
- 平成28年4月27日 参加申込書等の提出期限
- 平成28年5月11日 第2回審査委員会（第一次審査の実施）
- 平成28年6月 3日 技術提案書の提出期限
- 平成28年6月15日 第3回審査委員会（プレゼンテーション・ヒアリング及び第二次審査の実施）

3 審査結果

第一次審査で選定された3事業者から提出された技術提案書について、プレゼンテーション及びヒアリングを実施し、審査委員会において厳正かつ慎重な審査を行った結果、次のとおり、受注候補者及び次席者を特定した。

受注候補者	株式会社 佐藤総合計画	71.1点
次席者	株式会社 日総建	66.5点
—	A社	66.2点

(100点満点)

4 審査委員会の構成

	氏名	役職等
委員長	大島 博明	ものづくり大学 技能工芸学部建設学科教授
副委員長	渡辺 洋子	芝浦工業大学 工学部建築工学科教授
委員	柿島 佳弘	埼玉県営繕工事事務所長
委員	恩田 雅明	埼玉県熊谷建築安全センター所長
委員	長原 一	深谷市副市長
委員	島崎 保	深谷市総務部長
委員	須藤 浩一	深谷市都市整備部長

5 審査講評

第一次審査では、参加申込書の提出があった4者について、設計事務所の能力として技術職員数、有資格者数及び同種・類似業務実績、また、配置技術者の能力として保有資格、同種・類似業務実績、経験年数に関する審査を行い、3者を技術提案書の提出要請者として選定した。

第二次審査では、3者から提出された業務実施方針及び4つのテーマに対する技術提案書について、プレゼンテーション及びヒアリングを実施したうえで、業務実施方針については、業務の理解度及び的確性の観点から、4つのテーマに対する技術提案書については的確性、独創性及び実現性の観点から評価するとともに、業務見積書評価を加え、審査委員会委員の合議による審査を行った。

全体として、いずれの提案者も「安全・安心な庁舎」を実現させるために「免震構造」の提案、並びに「深谷らしい庁舎」として「レンガ」を用いた提案がされるなど、豊富な設計業務実績に基づく提案内容の質は非常に高いものであった。

受注候補者として特定された「株式会社 佐藤総合計画」の提案は、深谷市の歴史や地域特性、周辺環境等への理解度が高く、多くの評価項目において高い評価を得た。

特に、テーマの一つである「安全・安心な庁舎」については、他の2者が6階建てを提案する中、深谷断層に配慮し、重心が低く堅牢な庁舎を実現するために4階建てとする災害時の機能維持に優れた提案が高く評価された。

また、「イニシャル・ランニングコストの低減」のテーマに対する提案として、低層でコンパクトな形にすることにより、イニシャルコスト及びランニングコストが縮減でき、また、工期を短縮できる点が高く評価された。

「深谷らしい庁舎」についてのテーマに対しては、国道に面して、深谷市の国の重要文化財をモチーフとした回廊を設置し、市民活動スペースと一体となる新たな回遊動線を促す提案が高く評価された。

一方で、西側をメインエントランスとすることに対する風対策、建築面積が大きくなることによる市民動線等への配慮、寄棟屋根とすることによる各種アンテナ類や室外機等の設置場所の必要性が指摘された。

次席者となった株式会社 日総建の提案は、低層階の1、2階部分を北側に膨らませ、南側を駅方面からの「まちの顔」とし、北側をメインエントランスとして市民を迎え入れる「おもてなしの顔」と位置づける「二つの顔」を持つ独創的な提案が高く評価された。

しかし、北側をメインエントランスとすることに対する風対策、現庁舎を使用しながらの建築計画に対する配慮の必要性やイニシャル・ランニングコスト増加の懸念が指摘されるなど、提案内容の実現性に疑問が残った点が受注候補者との評価の差となった。

A社の提案は、質実剛健で現実的な提案であり、イニシャルコスト縮減に対する具体的な提案や、維持管理・設備更新がしやすい提案等、高く評価された点もあったが、提案内容にやや独創性が欠けていたため、相対的に受注候補者及び次席者を高く評価する意見が多く、特定には至らなかった。